

宮崎兄弟資料館だより

第2号 2015/03/31

荒尾市・宮崎兄弟資料館とシンガポール孫中山南洋記念館・晚晴園は文化協力事項に関する「基本協定書」を調印しました！



▲晚晴園にて基本協定書を交換する呉理事（左）と丸山教育長（右）

＜晩晴園と宮崎兄弟資料館の交流＞

晩晴園はシンガポールの孫文顕彰施設であり、2012（平成24）年に同館が中心となって開催された「孫文・宋慶齡記念地連席会議」に荒尾市が招待されたことから、晩晴園と宮崎兄弟資料館の交流が始まりました。その後、2013（平成25）年に晩晴園の企画展「孫文、シンガポールと日本 海外で知己に会う」に宮崎兄弟資料館から史料を出品し、同年、晩晴園の方々が荒尾を訪問され、今後も展示や研究など、幅広い分野にわたって相互に協力し合っていきたいとの両館の意向を確認し、今回の基本協定書調印に至りました。今回の協定書の具体的内容については、今後両館での協議を進め、決定していく予定です。

＜孫中山南洋記念館—晩晴園＞

晩晴園は1880（明治13）年頃に建てられたといわれ、1905（明治38）年に中国の商人・張永福（1872-1959）が母親の隠居所として購入しました。張は中国革命の熱心な支持者であったことから、後に孫文に革命活動の拠点として晩晴園を提供しました。

孫文は1900（明治33）年7月から1911（明治44）年12月までに計9回シンガポールを訪れたことが確認されており、晩晴園にも数度滞在するなど、晩晴園は東南アジアでの革命活動の拠点となりました。現在は中国の「革命の父」孫文の革命活動や辛亥革命が東南アジアに及ぼした影響を紹介する博物館となっています。



▲孫中山南洋記念館 晩晴園

宮崎兄弟研究事業

一経過報告②一

荒尾市教育委員会・生涯学習課では、2014（平成26）年度～2016（平成28）年度の三カ年にかけて、宮崎兄弟に関する研究の一層の促進を目的とする「宮崎兄弟研究事業」に取り組んでおります。

本年度は、

- （1）宮崎兄弟生家所蔵・寄託史資料の整理
- （2）宮崎兄弟に関する先行研究の整理
- （3）宮崎兄弟に関する研究

に取り組んでいます。以下、この三点について経過報告をいたします。

（1）資料の寄贈について

・白蓮直筆の色紙寄贈

当館で企画展示「宮崎龍介展」を開催していることを知った市民の方から新たに寄贈いただきました。荒尾教会設立の際に白蓮が送った短冊や色紙のうち二枚で、元々は荒尾市の園田秀一郎氏（故）が所有していたものを、荒尾のために活かしてほしいと、園田氏の縁者の方から今回寄贈していただくことになりました。

宮崎民蔵の長女・貞は荒尾教会とめぐみ幼稚園の基礎を築いた人物ですが、実はこの設立の際に、白蓮が自身の短歌を書いた短冊や色紙を、夫・龍介のいとこであった貞に送ることで協力していました。そのことを伝える短冊が現在、荒尾めぐみ幼稚園に三枚保管されており、これを寄贈したのも園田氏でした。



▲寄贈いただいた二枚の色紙

・宮崎芳氏所蔵資料の調査

2014（平成26）年7月22日、宮崎民蔵と滔天の子孫にあたる宮崎芳氏が宮崎家のお墓参りのために来荒されました。その際、芳氏が所蔵する宮崎家関連の資料の調査及び目録作成について荒尾市に対し依頼があり、7月末～10月まで荒尾市教育委員会にて調査を行いました。

芳氏が所蔵する資料は民蔵の長女・貞、次男・世民、三男・世龍に関連するもので、中には父・民蔵や美以の書簡、民蔵の土地復権運動に関する史料など、貴重な史資料も含まれていました。荒尾市では、今後これらの資料のさらなる調査を進めていくつもりですが、これまで明らかにされてきた宮崎民蔵の思想と活動をさらに鮮明なものにするだけでなく、

民蔵の子どもたちの活動を詳らかにする資料調査になるとおもわれます。

（2）宮崎兄弟に関する先行研究の整理について

現在、宮崎兄弟に関する著書・文献・資料一覧を作成し、資料収集作業を進めております。これまで宮崎兄弟、特に宮崎滔天に関係する研究はたくさん世に出されていますが、当館では開館の際に刊行した『夢 翔ける 宮崎兄弟の世界へ』以降、きちんとした文献目録を作成出来ていませんでした。しかし、宮崎兄弟について研究をしている方が来館されることもあり、当館で改めて宮崎兄弟に関する先行研究を整理し、研究動向を把握する必要があるという結論に至りました。

この一覧表を見ていただければ、宮崎兄弟に関する研究がこれまでどのくらい行われて来たか、いつ、だれが、どうした視点から研究に取り組んできたのかを一覧することが出来ます。多くの方が簡単に閲覧することが出来るように、2015（平成27）年度の早い段階で宮崎兄弟資料館ホームページにて、一覧表のPDFデータを開示する予定です。

（3）宮崎兄弟に関する研究について

本年度に研究した内容としては、①宮崎滔天とシンガポールについて、②宮崎龍介・世民・世龍ら宮崎兄弟の子ども世代に関する調査・研究が挙げられます。

①は晩晴園との基本協定書調印に際して、②は企画展示「宮崎龍介展」の開催および、宮崎芳氏からの調査依頼に伴って調査したものです。いずれもいまだ調査・研究の段階にありますが、現在、宮崎滔天とシンガポールの関係について紹介するコーナーを、龍介の生涯については常設展示用のパネルを作成し、白蓮とともに紹介するなど、随時研究成果を資料館内の展示に反映させています。

また、宮崎芳氏から依頼を受けた資料には、日中友好協会時代の世民氏の活動を詳細に示す手帳などが含まれており、世民氏の自著『宮崎世民回想録』を裏付け、かつ「宮崎兄弟」の子ども世代の、日中友好のための運動内容を物語る貴重なものであることが分かりました。世龍氏の遺品からは、汪兆銘ら中国の要人とやり取りした手紙が発見され、これらの調査が進めば、今後、宮崎家に継承される「日中友好」の活動がより明らかになることが期待されます。これらの調査結果も、資料館内の展示に随時反映できるよう、取り組んでいく予定です。

来年度は、従来の「宮崎兄弟」の研究成果に1年目の研究成果を付け加えるとともに、「東アジア」という地域の枠組みから見た宮崎兄弟やその子どもらの歴史的評価など、包括的な研究に取り組む予定です。また、その成果を随時資料館内に反映させながら、企画展などを開催し、多くの方に宮崎兄弟の世界をより深く知っていただく機会を設けていきたいと考えています。次号以降も、続けて研究事業の経過報告を行ってまいります。

企画展示「宮崎龍介展-白蓮が愛した男の生涯」(9月2日～11月30日)



NHK連続テレビ小説「花子とアン」が放映されて以降、宮崎滔天の息子・龍介が白蓮の駆け落ち相手で、

ドラマに登場することなどを知った方々が次々に来館されました。そこで、これまで焦点を当てていなかった龍介の生涯を紹介する展示を企画。企画展示を開催した9月～11月は、前年比で約3倍の来館者が当館を訪れました。

9/27 第9回 音と光の祭典



一小校区元気づくり委員会が主催するこの行事も毎年恒例となり、本年度で9回目となりました。今年は荒尾第一小学校の6年生たちも運営に携わり、活気溢れるお祭りとなりました。

10/4 リレー講座「宮崎龍介と白蓮、そして荒尾」



企画展示「宮崎龍介展」の関連事業として、安田所長と学芸員の計二名によるリレー講座を行いました。

宮崎龍介の人物像について紹介するとともに、白蓮と荒尾との関係など、他では知ることの出

来ない話を紹介しました。当日は、市内外から定員の50名を超える方々に参加いただき、講座後には質問が次々とするなど、大変盛り上がりしました。



10/4 JR九州歴史探訪ウォーキング大会

毎年JR九州が主催しているウォーキング大会。今年は「花子とアン」の影響もあり、多くの方が宮崎兄弟資料館に来館されました。荒尾駅の参加者数も、これまでで最高の800人超を記録、資料館来館者数も300名を超えました。

12/6 第50回 滔天忌俳句大会



1965(昭和40)年から開始された本大会も今回で開催50回目を迎えました。本大会は、

滔天の功績を顕彰することを目的として、滔天の命日である12月6日に毎年開かれています。主催の荒尾市俳句協会は、これらの活動の功績が認められ、「地域文化活動部門」で「平成26年度『くまもと県民文化賞』」を受賞しました。

1/14～宮崎兄弟資料館 新コレクション展



平成25・26年度に、宮崎兄弟資料館の所蔵資料として新たに加えられた史料を公開しました。宮崎八郎の書簡、白蓮直筆の色紙、そして孫文扁額「博愛」など、宮崎家の新たな物語を伝える貴重な品々7点を展示しました。

1/23 文化財防火デー 防火訓練



「文化財防火デー(1月26日)」に合わせた防火訓練を今年も行いました。生家はもちろん、貴重な史資料

を所蔵する資料館を守るため、職員一同の意識向上を図り、防火設備の使用法を学びました。

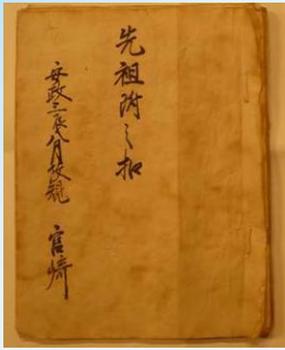
3/21～22 春の華展



今回で5回目となる春の華展。美しい花々に彩られた生家に、今年も多くの方が足を運んでくださいました。生け花体験コーナーも開かれるなど、明るい声

がこだまし、生家にも春が訪れました。

資料紹介 ①



～先祖附之扣 (控)～

「先祖附之扣 (控)」は、宮崎家の先祖「弥次兵衛正之」から「政賢」（「宮崎兄弟」の父）までの転暦を記す史料で、資料館1階に展示してあります。

史料を見ると、「正之」は江戸初期の人物で、彼が荒尾手永の惣庄屋・古沢家から娘をめとり、荒尾での定住を始めた人物であることが記されるなど、荒尾・宮崎家の歴史を記す貴重な史料であることが分かります。（寄託：宮崎明氏）

所長の独り言 ②

謹啓

うらかな春光を浴び、宮崎兄弟生家の野趣味溢れる庭先の牡丹園には、今や遅しと大きくつぼみをふくらませたピンクの牡丹が開花を急いでいる今日この頃です。

さて私事この度、2004（平成16）年4月以来、11年間勤務した本施設を3月末日をもって退職致します。生家座敷の軒先の縁側に腰掛けていると、のどかな陽射しの中で、この間の色々な思い出が走馬灯の如く去来し懐かしく感じます。施設開設以来21年のうち半分以上の年月を管理してきましたが、省みれば生家で過ごした日々やイベント、お客様の顔などが次々と思い浮かび感慨無量です。所長就任以来、宮崎兄弟の顕彰、日中友好の発信はもとより、市民が気軽に立ち寄れる公園的な役割、そして生家を利用した講演会、お茶会、俳句会、華道展など文化的な催しなど公民館的な場とすることを柱として管理して参りましたが、力及ばず市民の皆様の負託に応えられたのか自問自答するところです。この間、JRウォークや地域と連携した「音と光の祭典」などが恒例化し、また辛亥革命百年の2011（平成23）年、2013（平成25）年の生家開館20周年の両年は、年間を通して多忙で充実していました。また、締めくりとなる昨年のNHK朝ドラ「花子とアン」の龍介、白蓮効果による異常なまでの来館フィーバーは、開館以来最高の入館者を記録し、対応に苦戦しましたが、私の退職掉尾を飾るものでした。

2015（平成27）年度も万田坑の世界遺産本登録が見込まれており、その波及効果として回遊客が大幅に増えると、例年の3～4倍のお客様が当施設を訪れる年となり、尚一層の活性化と荒尾市の宝として生家施設が観光資源となって、さらに光があたるものと確信しております。喫緊の課題として生家のリニューアル、人的体制の整備などがありますが、願わくば施設の本質を損なわず、これをステップとしてさらに繁栄、隆昌のあらんことを祈念致しております。また、継続事業として資料館を通しての国内外での交流事業がさらに進展することを願っております。

最後にここまで宮崎兄弟の生家施設、及び小生に温かい御支援、御指導をいただきました関係各位、市民の皆様にご心より御礼を申し上げますとともに、これからも生家施設に御厚情を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年3月31日 安田信彦

＜今後の予定（4月1日～8月31日）＞

- ・春休み少年少女俳句教室（4月3～4日）
- ・第21回牡丹茶会（4月12日）
- ・第2回牡丹・文芸美術展（5月19日～6月14日）
- ・企画展示「孫文と荒尾」（7月初旬～8月下旬開催予定）
- ・第38回夏休み少年少女俳句教室（7月下旬～8月上旬）
- ・夏休み子ども教室（全二回開催予定。8月上旬～中旬）

※詳細については荒尾市教育委員会（☎0968-63-1681）までお問合せください。また、荒尾市では宮崎兄弟についての出前講座を行っています。ご希望の方は荒尾市教育委員会までご一報ください。

～編集後記～

2014（平成26）年度の宮崎兄弟の生家施設は「花子とアン」に彩られた一年でした。前号を発刊した後、9月から11月にかけて「宮崎龍介展」を開催しましたが、多くの方が連日來館され、生家施設に活気が満ちました。おかげさまで、本年度の総入場者数は1万人を超え、資料館開館以来の大盛況の年度となりました。一方で海外に目を転じれば、シンガポール・晚晴園との「基本協定書」調印など、かつて滔天が行った交流を礎にアジアとのつながりが形になった年度でもあり、とても活発な一年であったように思います。

ただし、どれもいまだ発展途上の段階にあり、そうした意味では地道な作業を積み重ねていくことが今後は求められるかと思えます。来年度も、地域に開かれた・地域に根付いた資料館をめざして積極的な取り組みを行うとともに、九州をはじめ、日本各地の孫文関連施設などとの交流も行い、全国に当資料館の存在をアピールしていけるよう努力していきたいと思えます。どうぞ今後とも、「宮崎兄弟生家施設」の取り組みへ皆様のお協力を賜りますよう、よろしくお祈りいたします。

～次号予告～

今回の「宮崎兄弟資料館・館報」3号は、2015（平成27）年9月に発行予定です。

内容は、

- (1) 宮崎兄弟研究事業 経過報告③
- (2) 生家だより（行事など）
- (3) 資料紹介②
- (4) 施設紹介①

を予定しております。その他、何か掲載内容についてご意見・ご要望があれば、下記メールアドレスまでお寄せください。

E-mail: mai.50083@city.arao.lg.jp

（担当：野田【荒尾市教育委員会】）